

県内経済動向調査結果(平成20年10月分)

平成20年12月5日

産業経済政策課

概況

県内経済は、国内外の需要の減少により、輸送機械などを中心とした製造業全体で生産が一層落ち込んでおり、弱めの動きがさらに広がっている。

主な業種	状 況
製 造 業	<p>電気機械のほか、輸送機械、鉄鋼金属などの落ち込みが激しく、精密機械でも前年割れとなっている</p> <p>生産額、受注額はそれぞれ前年同月比9.7%減、同8.9%減となった。3か月先の業況見通しDIは 44.7から 67.1となった。</p>
建 設 業	<p>業界全体で厳しい状況が続いている</p> <p>受注額、完工高はそれぞれ前年同月比67.8%増、同2.8%増となった。3か月先の業況見通しDIは 43.8から 68.8となった。</p>
小 売 業	<p>家電品で好調な売れ行き続く</p> <p>売上高は前年同月比で8.2%増、3か月先の業況見通しDIは 44.4から 69.2となった。</p>
サービス業	<p>運輸で弱めの動きとなっている</p> <p>売上高は前年同月比1.7%減、3か月先の業況見通しDIは 50.0から 37.5となった。</p>

製造業の動向

1 食料品

さらに弱い動き

生産額は前年同月比4.3%減。3か月先の業況見通しDIは 21.4から 57.1となった。

酒類では、県内の需要低迷が続いており、消費量が増える時期であるにもかかわらず先月よりも落ち込んでいる。原材料高等の影響により値上げした企業が多く、前年に比べ消費者の需要が減少している。

加工食品や菓子類では、季節的要因によるスープ類や鍋物関連商品で順調に需要が伸びているものの、消費者の低価格志向の高まりから総菜類などでは、前年を割り込む生産となっている。総じて見ると、先月に続き弱い動きとなっている。

原油価格は落ち着いたものの、段ボールなどの包装材は高止まりしており、企業の収益を圧迫するなど厳しい状況は続いている。

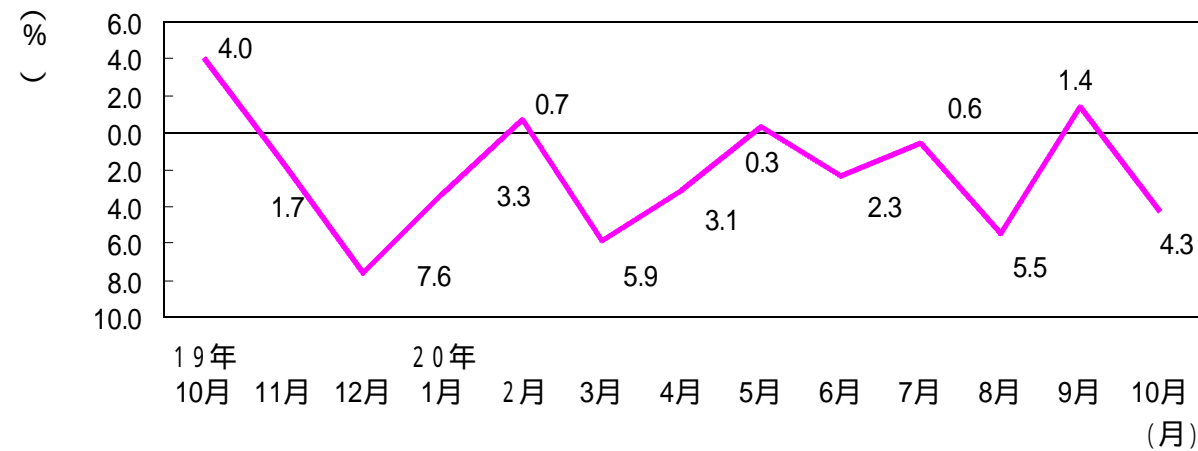
2 繊維・衣服

低調な生産活動が続く

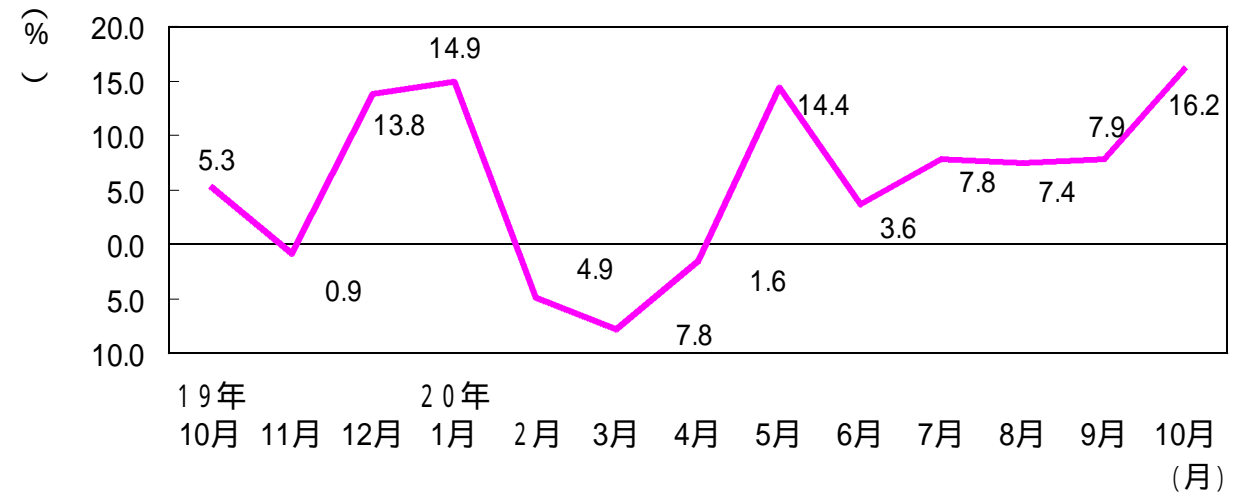
生産額、受注額はそれぞれ前年同月比16.2%増、同8.5%減。3か月先の業況見通しDIは 57.1から 42.9となった。

生産額で前年同月を大幅に上回っているものの、昨年の伸び悩みの反動増となっている企業が一部にあり、そういった要因を除くと全体としては前年比4.0%減となり、業界全体として厳しい状況にある。品目別に見ると、学生用製品では生産・受注ともに安定しているが、婦人服などでは冬物の発注が減少しているうえに小ロット生産となっていることから、全体の業況を押し下げている。各社とも、国内景気の減速により消費者の買い控えがさらに加速することを懸念してる。

食料品生産額前年同月比



繊維・衣服生産額前年同月比



3 木材・木製品

14ヵ月連続マイナス、厳しい状況が続く

生産額、受注額はそれぞれ前年同月比17.7%減、同19.1%減。3か月先の業況見通しDIは 33.3から 58.3となった。

集成材では県外から受注を得ている企業が一部にあるものの、県内の住宅市況は改善されておらず、全体としては合板、集成材、一般製材ともに低調な生産活動となっている。業界全体として低迷しており、今後も不透明感が漂っている。原油価格は落ち着きを取り戻したが、原材料に反映されるまでにはタイムラグがあり、接着剤や梱包材などでは依然高止まりが続いており企業の資金繰りを圧迫している。

4 鉄鋼・金属製品

生産の落ち込みが続く

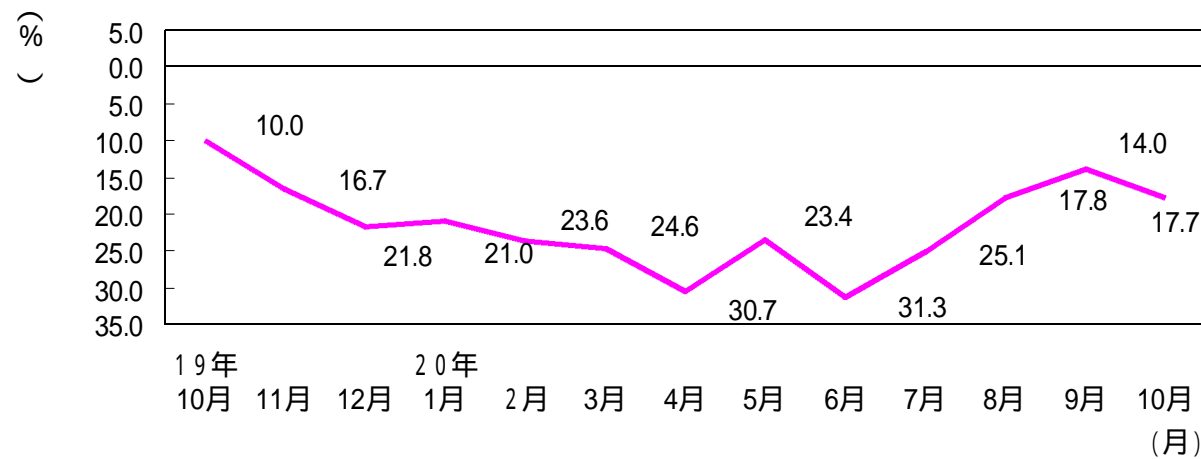
生産額、受注額はそれぞれ前年同月比21.9%減、同18.6%減。3か月先の業況見通しDIは 36.4から 72.7となった。

建機関連で受注・生産ともに堅調となっている企業が見受けられるものの、電気機械や公共工事関連の多くの企業で生産の落ち込みが続いており、総じて先月以上に厳しい状況となっている。

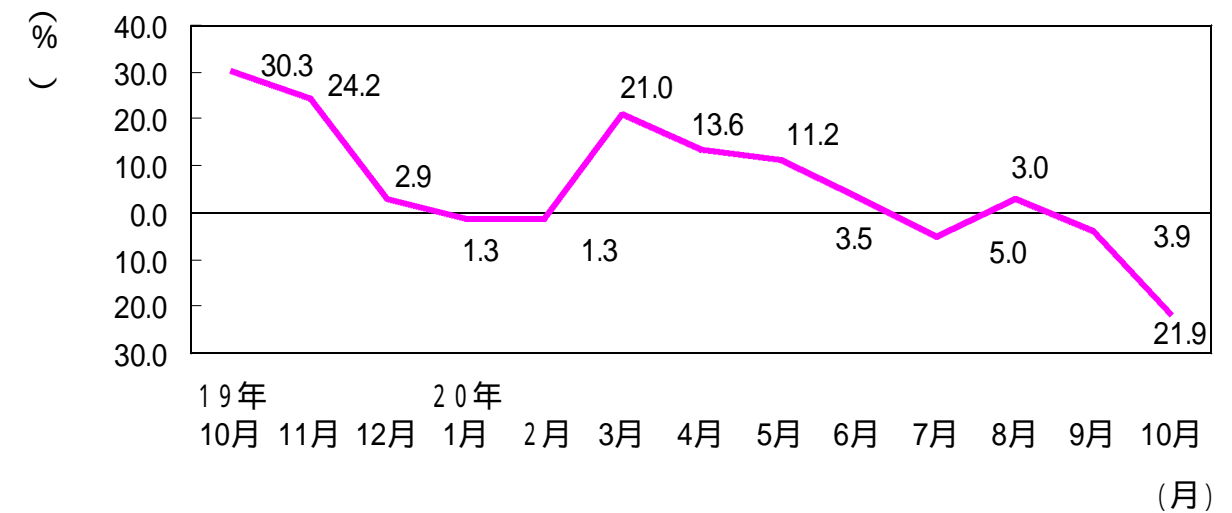
この間建具関係でも、競争の激化により利幅が減少しており、厳しい状況となっている。

原材料の価格については、いまだに高止まりしているものがあり、多くの企業の収益を圧迫している。

木材・木製品生産額前年同月比



鉄鋼・金属生産額前年同月比



5 一般機械

品目ごとに業況分かれる

生産額、受注額はそれぞれ前年同月比16.9%増、同2.6%増。3か月先の業況見通しDIは 42.9から 71.4となった。

一般産業機械・プラント設備関連では、生産・受注ともに堅調に推移しており、数ヶ月先の受注残を抱えている企業も見受けられるが、公共工事関連や輸送機械関連では受注状況が悪化してきており、今後の生産活動の鈍化が懸念される。全体としては生産額前年同月比でプラスとなっているが、品目ごとに業況が分かれている。

原材料の高止まりは依然続いており、企業の収益を圧迫している。

6 電気機械

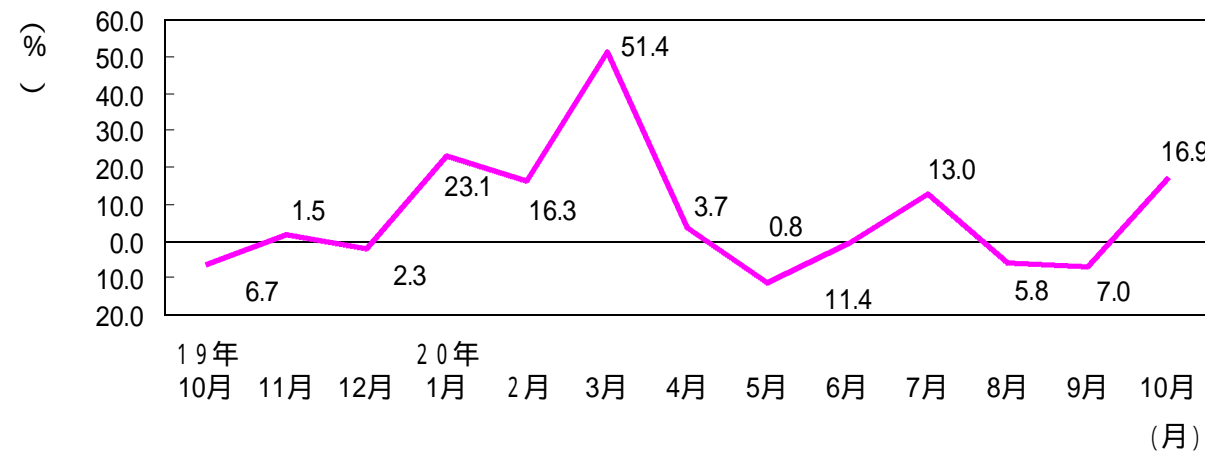
生産の落ち込みが続く

生産額、受注額は、それぞれ前年同月比8.1%減、同7.7%減。3か月先の業況見通しDIは 65.0から 75.0となった。

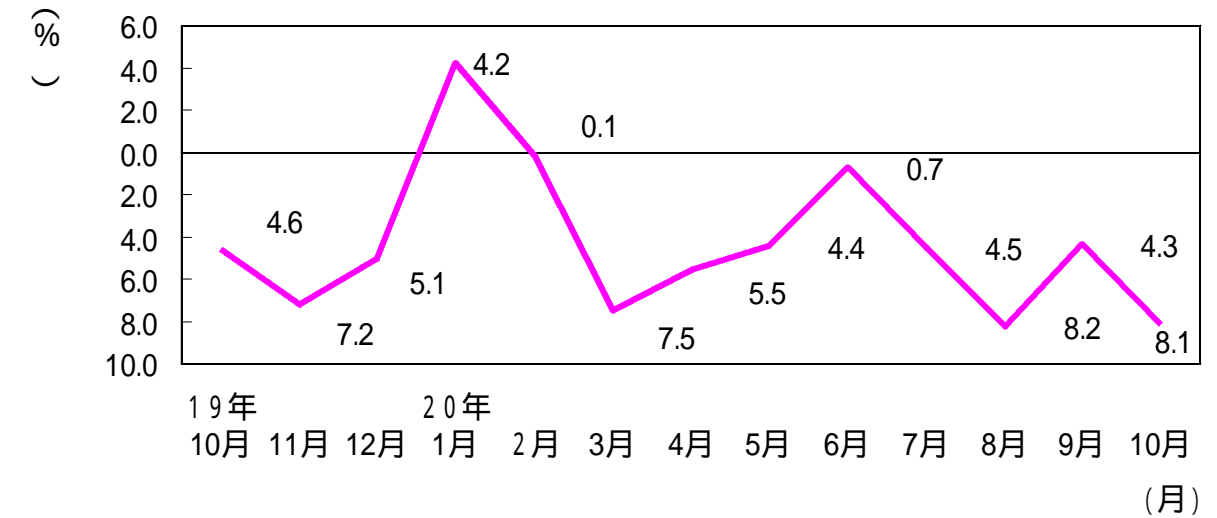
プリンター部品や基板、一部の携帯電話液晶部品、光ファイバーなどの通信部品で先月に引き続き好調な生産活動となっている。一方で、携帯電話部品やコンデンサー、半導体では、国内の供給過剰に世界景気の減速も重なり、減産に歯止めがかからない状況となっている。

総じて見ると、生産額前年同月比で8.1%の減となっているが、これは昨年10月の生産額が大きかった反動であり、ここ5ヵ月で比較しても同程度の生産額となっている。生産・受注で前年割れとなっている企業が多く、先行きの不透明感が強まっている。

一般機械生産額前年同月比



電気機械生産額前年同月比



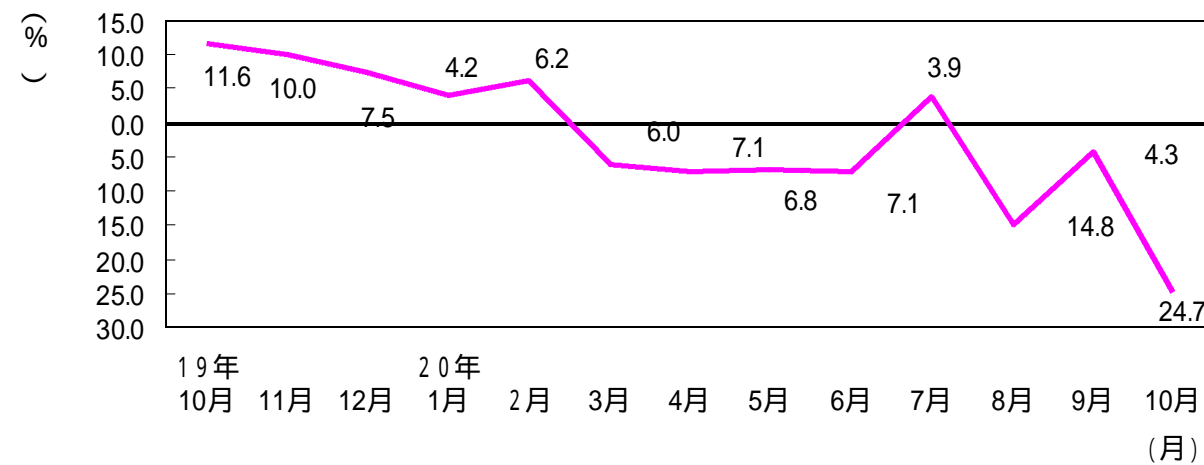
7 輸送機械

減産企業多く、生産活動は低迷している

生産額、受注額はそれぞれ前年同月比24.7%減、同24.8%減。3か月先の業況見通しDIは 50.0から 66.7となった。

ほとんどの企業で減産しており、先月まで好調に推移していた精密部品関連でも海外向け製品の不調を受けて落ち込んでいるほか、内装品関連でも、先月以上の大幅な減産となっている。総じて見ると、世界的な景気減退の影響を受け、先行きの不透明感は一層強まっており、生産活動は低迷している。

輸送機械生産額前年同月比



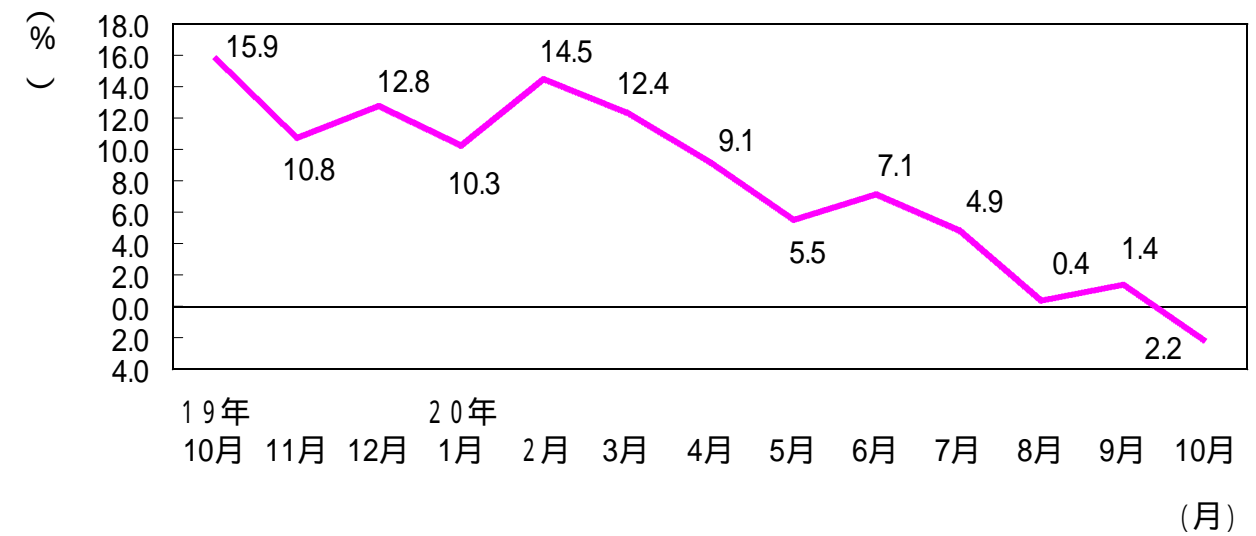
8 精密機械

弱含み基調、25ヵ月ぶりに前年を割り込む

生産額、受注額はそれぞれ前年同月比2.2%減、同4.9%増。3か月先の業況見通しDIは 50.0から 87.5となった。

光学部品関連の一部の企業で堅調な生産活動が続いており、医療機器関連でも好調を維持している企業がある。しかし、デジタルカメラ関連や光ファイバー関連、計量関連において、海外向け製品の需要減少により生産が落ち込み、総じて弱含んだ基調となっている。生産額でも25ヵ月ぶりに前年を割り込み、先行きは不透明となっている。この間、原材料や輸送費の高止まりは続いており、企業の収益性を苦しめている。

精密機械生産額前年同月比



建設業の動向

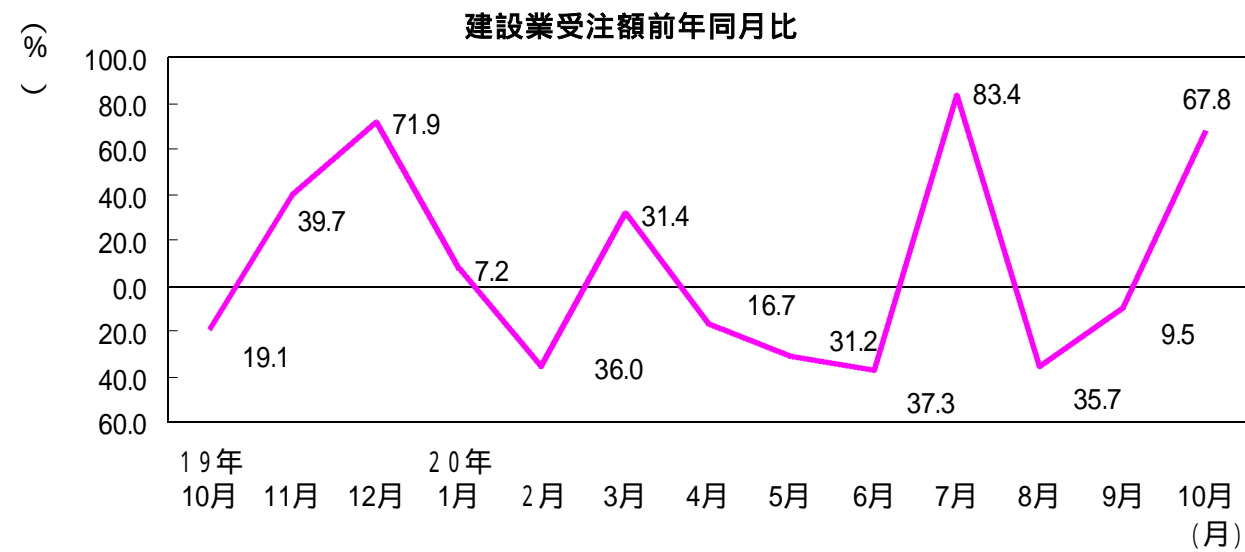
建設業

厳しい状況が続く

受注額、完工高はそれぞれ前年同月比67.8%増、同2.8%増。3か月先の業況見通しDIは 43.8から 68.8となった。

大規模公共工事受注などにより受注額、完工高ともに前年同月比増となっているが、過当競争による低価格入札は常態化しており、各企業の利益は薄く、業界全体として厳しい状況が続いている。

鋼材価格などについては下がり始めてはいるものの、依然高値であり、企業の資金繰りは厳しい状況となっている。今後は公共工事発注が少ない時期になることから、さらに業況が厳しくなることが懸念される。



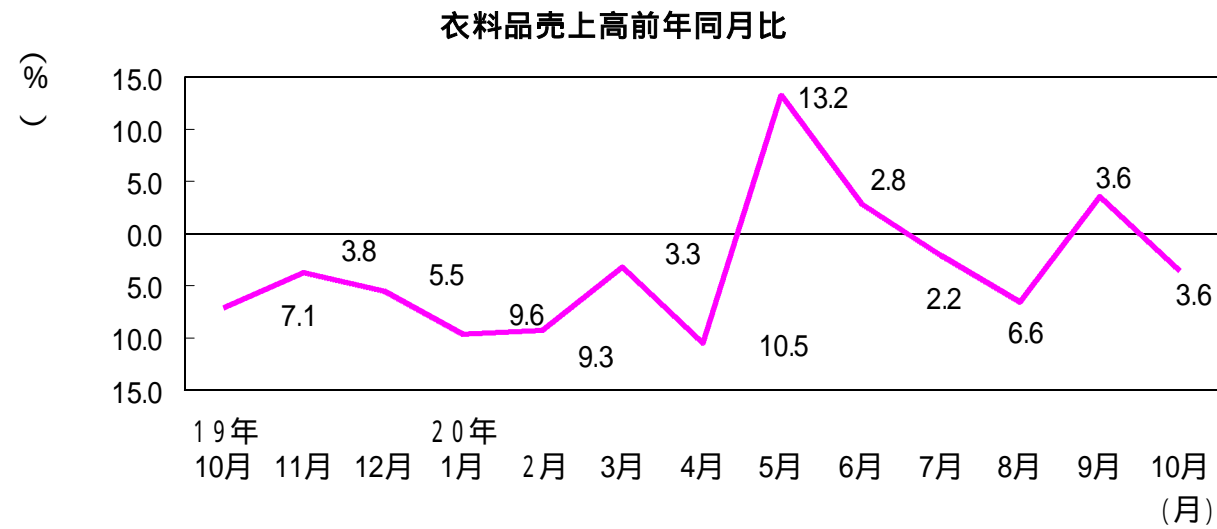
小売業の動向

1 衣料品

好天も影響し、低調な売上となっている

売上高は前年同月比3.6%減。3か月先の業況見通しDIは 16.7から 83.3となった。

セールスの効果により売上高で前年同月比増としている企業が一部にあるものの、消費者の買い控え傾向が続いているほか、新規大規模小売店舗との競争もあり、総じて低調な売上となっている。品目別に見ても、紳士服、婦人服で不調なほか、先月好調だった呉服でも好天が影響し前年を割り込んでいる。

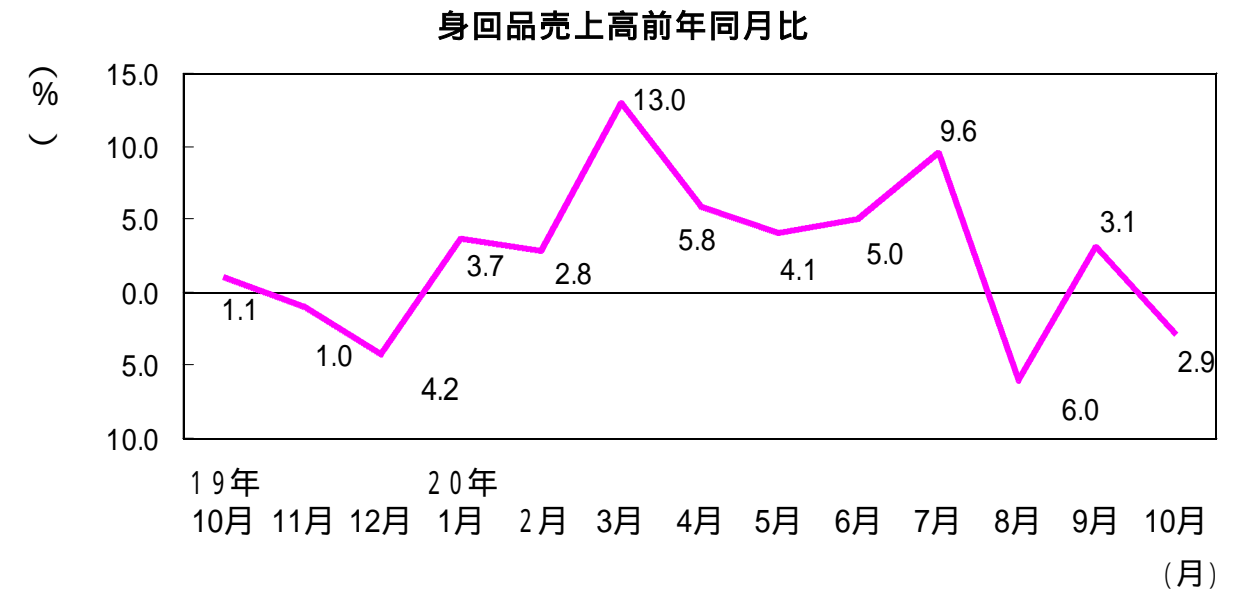


2 身回品

売上の落ち込みが続く

売上高は前年同月比2.9%減。3か月先の業況見通しDIは 83.3から 100となった。

豆炭などの省エネ関連商品に動きが出始めているものの、郊外の大型小売店舗に客足をとられていることや、好天により冬物商品が不調であったことが影響し、総じて見ると来客数・客単価ともに減少し売上の落ち込みが続いている。灯油価格が下がり始めていることもあり、各店とも今後の冬物商品に期待がかかる。



3 飲食料品

底堅い売上となっている

売上高は前年同月比7.1%増。3か月先の業況見通しDIは 50.0から 66.7となった。

昨年の国体特需の反動減のほか、食の安全志向から中国産品や加工食品で不調となっているが、国産食品などの売れ行きが堅調なことから、総じて底堅い売上となっている。

小麦や乳製品を中心に商品価格の高止まりが収益を圧迫していることや、大規模小売店舗との競争が激しくなっていることから、総じて企業の経営を苦しめている。

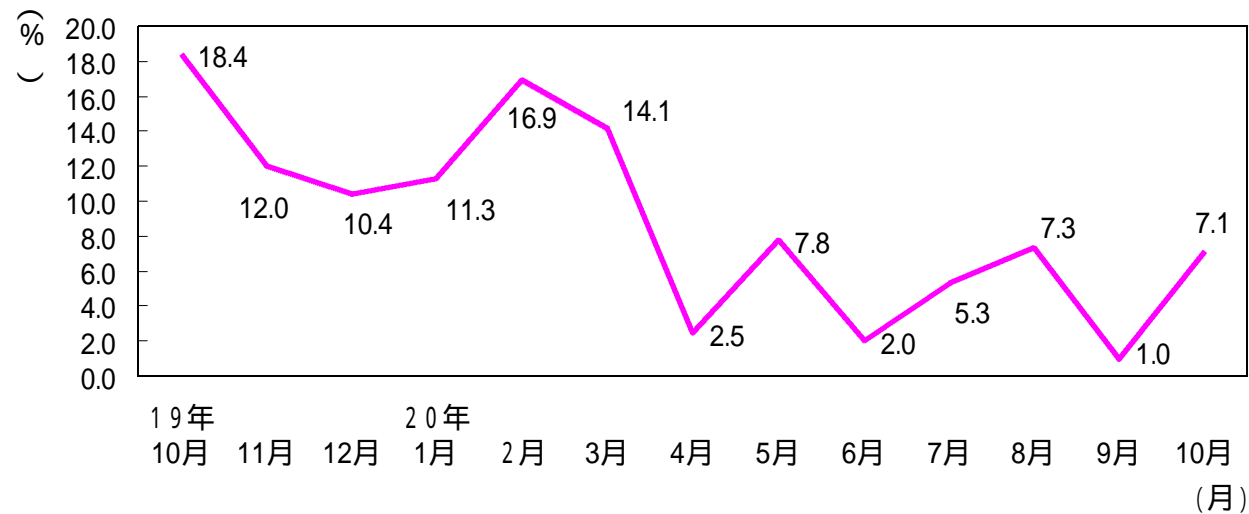
4 家電品

薄型テレビやDVDレコーダーが好調

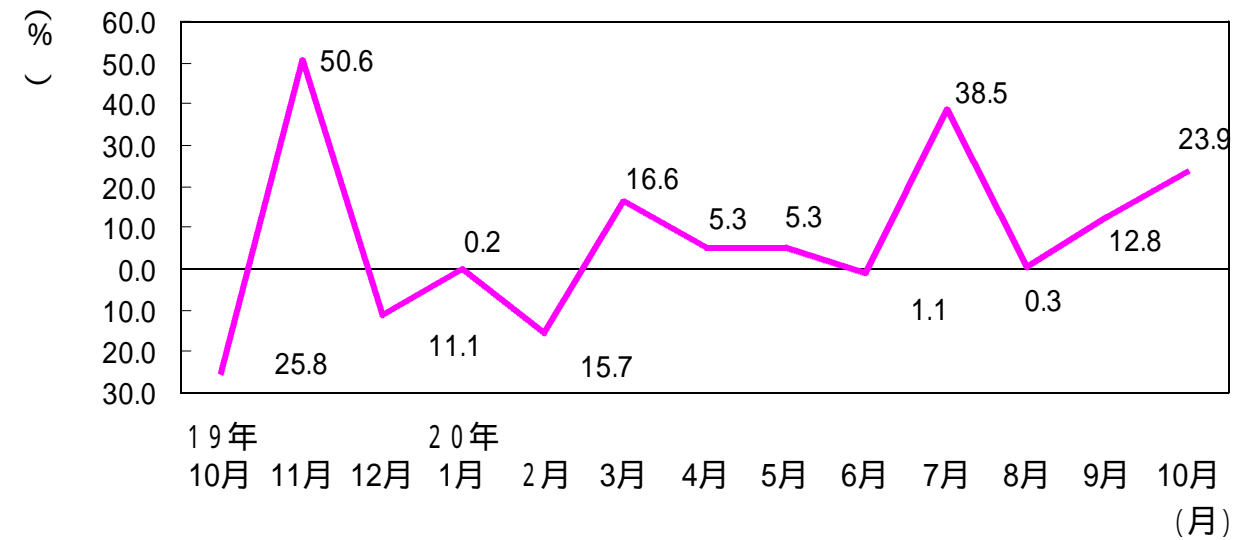
売上高は前年同月比23.9%増。3か月先の業況見通しDIは 20.0のまま変わらない。

10月は暖かい日が多かったことから、エアコンなどの暖房機器は振るわず、携帯電話やパソコンなどでも引き続き低調な売れ行きとなっている。一方で、商品価格の下落などから薄型TVやDVDレコーダーなどのデジタル家電で好調なほか、冷蔵庫や洗濯機といった白物家電でも堅調な売れ行きとなっており、全体としては売上高で前年を大幅に上回っている。一部の企業では、近隣に競合他社が出店した影響が売上に始めている。

飲食料品売上高前年同月比



家電品売上高前年同月比



サービス業の動向

1 旅館・ホテル

7ヵ月ぶりにプラスとなるが、厳しい状況が続く

売上高は前年同月比5.9%増。3ヵ月先の業況見通しDIは、78.6から71.4となった。

ガソリン価格下落や、今年から開催された各種イベントにより客足が増加しているほか、先月に引き続き大規模小売店舗の開店に伴うビジネス客を取り込めていることから宿泊部門が好調となっている。利幅の大きい婚礼部門で好調となっていることもあり、総じて見ると7ヵ月ぶりに売上高前年同月比増となっており、国体特需があった昨年を上回る結果となった。

しかしながら、今月は一時的な要因が多いことや、今後も近隣の新規ビジネスホテルとの競合が続くことから、先行きを懸念している企業がほとんどであり、基調としては厳しい状況が続いている。

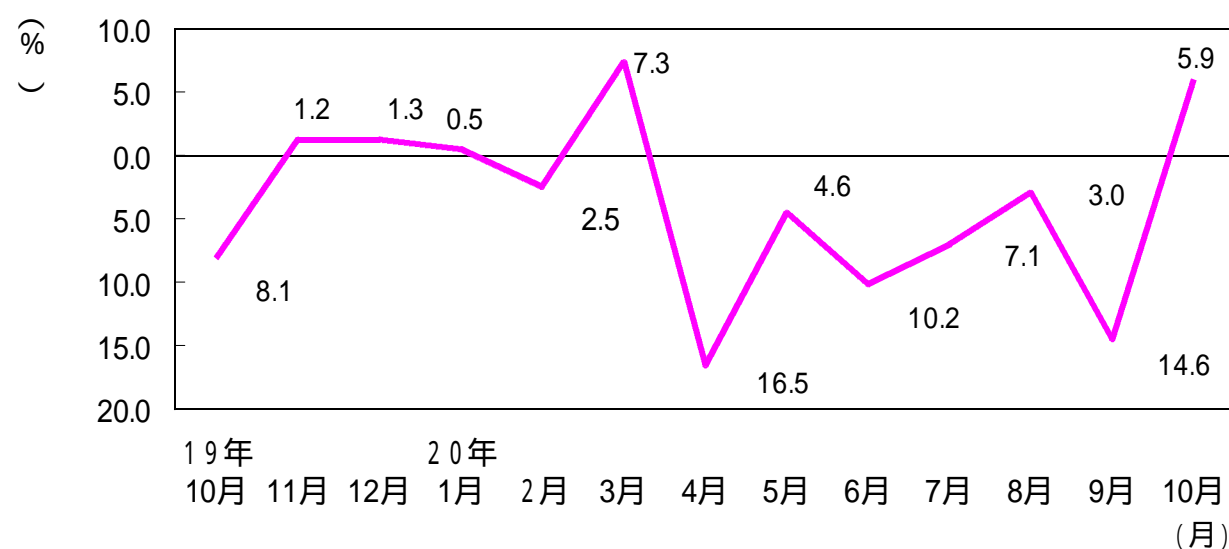
2 その他サービス

運輸業では弱め

売上高は前年同月比8.6%減。3ヵ月先の業況見通しDIは10.0から10.0となった。

運輸業では、ガソリン価格の下落により収益性については持ち直してきているものの、国内外の景気減速により荷動きが鈍いことや観光客が減少していることから、前年同月比6.6%減となっている。ソフトウェア関連では、先月に引き続き低調に推移している。保険では、前年並の売上となっている。

旅館・ホテル売上高前年同月比



その他サービス売上高前年同月比

